

平成 18 (2006) 年度 日本語一般コース及び Study Japan Program 報告

留学生センター 畝田谷 桂子

1. 日本語一般コース、Study Japan Program とは？

留学生センターでは、共通教育や大学院で開講している日本語授業の他に、全学の外国人留学生、外国人研究者、その家族を対象に、多くの日本語授業を開講している。それらは、留学生向けの「研修コース」と「一般コース」、外国人研究者および家族向けの「家族サポートコース」に分けられる。

留学生向け授業のうち「研修コース」は、主に大使館推薦国費研究留学生を対象とする大学院入学前予備教育で、1学期集中の日本語初級コースである。

「一般コース」は、全ての留学生が個々の日本語能力に応じて受講できる授業群である。各授業の内容は1学期ごとに完結し、学生は各学期初めのプレースメントテストで指定されたレベル内において、各人の日本語能力と時間の余裕に応じて、授業を必要なだけ選択して取ることができる。レベル別に初級から上級の授業が提供され、技能別の授業も設けている。

この「一般コース」の授業科目の中から、学术交流協定校から派遣された特別聴講学生に対して、日本語初・中級レベルの単位および修了証を発行するのが Study Japan Program である。

ただし「一般コース」の上級レベルの授業は、共通教育の日本語・日本事情科目(学部留学生の必修科目)を「一般コース」の上級レベルとして位置付け、学部生以外の上級レベルの留学生にも受講を許可している。またこの他に、農学研究科が開講している科学技術日本語も、「一般コース」の中で中級から上級レベルと位置付け、農学研究科以外の同レベルの大学院留学生にも受講を認めている。

本稿では、この「一般コース」と「Study Japan Program」について、以下の順で平成 18 年度実施報告を行う。2. 今年度の課題に対する成果、3. 今年度の運営報告、4. 各授業の受講者数、修了者数、開講場所、受講者の在籍資格、専門・所属、国籍、5. 次年度の課題

2. 今年度の課題に対する成果

昨年度、「平成 17(2005)年度日本語一般コース及び Study Japan Program 報告」注1)に「次年度の課題」としてあげた 4 点について報告する。

2-1. 教育の質の継続的な充実、向上

教育の質の継続的な充実については、今年度の課題として「授業担当教員の教授能力を向上するため、タスク型研修を行ったり授業研究の成果を学外で発表するなど、授業の実践と研究のつながりを強くすること」をあげた。

本年度の成果は、まず、日本語教育学会第 1 回研究集会を本学郡元キャンパスで開催(6 月 10、11 日)し、留学生センター教員が常勤非常勤問わず開催に携わり、研究発表を行い、会員研修に参加したことである。研究発表と会員研修の題目は以下の通りである。

研究発表：

1) 和田礼子「格助詞「に」は初級学習者にどうイメージされているのかーイメージ化さ

れやすい「に」とされにくい「に」—」

- 2) 上迫和海「文化を中心とする日本語集中コースの実践例—有隣館方式をめざして—」
- 3) マルヴィー菜穂子、四元睦美「中級レベルの会話の授業で取り組みスピーチ」

会員研修:

講師 伊東祐郎(東京外国語大学)

講演 6月10日 15:40~17:10 「地域日本語教育から学ぶ“参加型学習アプローチ”」

会員研修 6月11日 10:00~16:30 テーマ「参加型学習」と「日本語教育」

また、鹿児島日本語教育研究会が主催した統計セミナー(9月6日、鹿児島大学有倉巳幸助教授)、講演会(3月31日、東北大学上原聡教授)にも、常勤非常勤問わず多くの教員が参加した。これらの学会、研究会に積極的に参加したことにより、「タスク型研修を行ったり授業研究の成果を学外で発表するなど、授業の実践と研究のつながりを強くする」ことについての成果は十分にあげることができた。

その他の教育の質の向上の成果は、以下のとおりである。

- 1) 一斉指導ではなく、個別指導を行う授業(文法ワークショップ、桜ヶ丘日本語ワークショップ)を設け、在籍目的の違いによる言語習得ニーズや、漢字圏・非漢字圏の相違に対応した。
- 2) 初級会話3クラスで、前期の反省に基づき後期を43課から始めることにより、学習しやすくなった。また、期末試験の聴解試験を「日本語能力試験」の過去問題にし、レベルに合った試験にした。
- 3) 初級クラスで取り組んでいた電子化教材を整備した。
- 4) 中級会話1クラスで宿題提出用紙を作成し、宿題提出率を前期 44.2%から後期 82.0%に高めた。
- 5) 今年度も継続して授業担当者の情報交換を活発に行うことにより、授業運営に効果があがるよう努めた。直接の話し合いや、授業ごとの電子メールアドレス設定などにより、担当者間で授業方法・内容や学生について情報を共有し、授業運営のために共通理解を深めた。

2—2. 授業評価の効果的な扱い

授業評価の効果的な扱いについては、今年度の課題として「授業評価の効果的な扱いに工夫の必要がある。評価を受けた上での授業の改善計画、改善後の効果の検証について考える必要がある」とした。

今年度は「自己評価報告集用資料(授業内容報告、授業実践についての自己評価、改善案)」という用紙を留学生センターで作成し、各学期終了後に授業担当教員が学生による授業評価を読んだ後、担当教員全員が記入するシステムにした。

従来授業に対して個々に内省していたことが、文書化することにより、内省したことを明らかに表す機会ができたと言えよう。また、常勤教員がコーディネーターとして全てに目を通し、各授業の状況を把握する機会にもなった。

前期の改善案を後期に実施して効果があがった例(初級会話3や中級会話1:2-1.教育の質の継続的な充実、向上参照)もあり、それらが目に見える形で記録されるようになったことは成果と言える。

2—3. 上級レベルの非常勤講師予算削減によるクラス当たり学生数の増加

非常勤講師の予算削減により、昨年度から上級レベルの共通教育後期の日本語 III が3クラスから2クラスとなった。

その結果、昨年度は共通教育を受講する学部生の増加もあいまって、1クラスが約 23 名というかつてない大きなクラスになった。教育効果への影響を低減する努力を行ったが、学生数の多さと学生間の能力の開きにより、教育効果の低下は否めなかった。本年度もこのような状態が懸念されたが、本年度は学部1年生が14名(昨年度は36名)と少なかったことで、クラス当たりの人数が減少し(約15名)、昨年のような状態を避けることができた。

2—4. 学部入学生数の増加にともなう上級レベルにおける日本語能力の低い学生数の増加

昨年度、学部入学生数の増加によって上級レベルに日本語能力の低い学生の絶対数が増し、解決が必要であった。しかし、今年度は学部1年生の全体数が減ったことにより、そのような学生の数も減少した。とはいえ、基本文法の活用が正しくできない等、基礎に問題のある学生も数名はいる。このような学生には特に、自己の日本語能力(現状で能力不足)を認識して授業外でも自助努力するよう説得したが、目にみえる即効の成果にはつながっていない。

3. 本年度の運営報告

【1】開講時期

前期:4/17~7/28 (15 週間) 後期:10/16~2/16 (15 週間)

新規留学生の多くが4月、10月初旬に渡日し、渡日後の各種手続き等に調整期間が必要なため、学期期間は毎年全学の授業日程より遅れて設定している。

【2】オリエンテーションとプレースメントテスト

前期 4/11、後期 10/10(午前:初・中級プレースメントテスト、
午後:オリエンテーション)

a. プレースメントテスト

上級プレースメントテストは各学期の共通教育初回授業で実施(4/12、10/4)

プレースメントテスト追加試験:4/13、12/7、1/15

対象:所定の日時に受験できなかった学生

受験者総数:前期 62 名(内上級テスト受験者 27 名)

後期 62 名(内上級テスト受験者 25 名)

初・中級用問題:SPOT A、B(Simple Performance-Oriented Test 筑波大学開発)

及び自作文法問題、日本語検定協会の J. Test の一部

上級用問題:日本語検定協会の J. Test の一部

b. オリエンテーション

配付物:前期『鹿児島大学日本語授業履修案内 Spring 2006』

『スタディ・ジャパン・プログラム授業科目概要』

後期『鹿児島大学日本語授業履修案内 Fall 2006』

『スタディ・ジャパン・プログラム授業科目概要』

上記配付物により、全授業のレベル別リスト及び授業担当者、教科書、授業内容、受講規則及び修了認定規則、教室配置図等を説明し、プレースメントテスト結果に基づいて受講クラスについて個別指導を行った。

【3】留学生センターホームページで日本語プログラム情報公開

例年どおり前・後期ともオリエンテーション当日までに、新学期の日本語プログラム情報をホームページで公開した。また、今年度ホームページのトップ頁のデザインを一新し、各ページもデザインや画像のレイアウトなどを工夫して、見やすく改変した。さらに学長裁量経費を得て、中国語、韓国語ページを設けることができた。

【4】コースインフォメーション作成及び初回授業での学生への配布、説明

今年度も、全授業担当者がコースインフォメーション(『スタディ・ジャパン・プログラム授業科目概要』等に記載されているシラバスより詳しい、各授業についての確定情報)を作成し、各々の初回授業で学生に配布、説明した。コースインフォメーションは、授業開始後留学生センターにファイルし、随時学生や他授業担当者に提示できるようにしている。遅れて来日した学生や、興味のある授業について情報を得たい学生に各クラスの詳しい情報を提供したり、講師間で授業情報を得ることに役立てた。

【5】オープンクラス(授業公開)

毎学期一定の授業を学内、学外者に公開し、参観者との意見交換および質疑応答を行っている。今年度は以下の通り実施した。

前期 6/21 公開クラス:初級1、初級2、初級3

参観者延べ総数 25名 内訳:学内 学生 15名、教員 1名

学外 他大学学生 8名、一般 1名

後期 1/18~1/26 公開クラス:初級1、初級3、異文化理解1、中級読解2

参観者延べ総数 20名 内訳:学内 学生 12名

学外 他大学学生 3名、一般 5名

【6】学生による授業評価

今年度も、留学生センター所属の授業担当者の日本語授業全てに対して学生による授業評価を行い、留学生センターで回収、集計結果を公表した(巻末参考資料参照)。授業評価質問紙は留学生センターで統一したものを作成、使用している。

【7】授業内容報告、授業実践についての自己評価、改善案

今年度から各学期末に、全ての授業担当教員に「授業内容報告、授業実践についての自己評価、改善案」を提出してもらうことにした。記入用紙は留学生センターで項目を検討し、作成した。授業担当教員は、学期末の学生による授業評価結果を見た後、記入するため、担当授業

について内省する機会になった。

【8】新規非常勤講師へのオリエンテーション

今年度新たに加わった非常勤講師に対し、授業開始前に日本語プログラムや担当クラスについて説明した。また、専任教員が非常勤講師の授業を見学して意見交換および助言を行った。

【9】Study Japan Program

平成 16 年度後期から開講している Study Japan Program は、学术交流協定校派遣の特別聴講学生に対して日本語初・中級レベルの授業単位を発行している。また、日本語学修科目(必修・選択)、文化学修科目(必修・選択)から、所定の科目を 10 単位以上修得した場合は、SJP 修了証書を発行している。

本年度の SJP 単位認定者数は 38 名で、総認定単位 254 単位(前期 138 単位、後期 116 単位)、そのうち 7 名(前期 5 名、後期 2 名)が SJP 修了証を取得した。

SJP の特徴、プログラムの概観は以下の通りである。(『SJP 授業科目概要』)

SJP の特徴

- 1 学期または 1 年間、日本語日本文化を中心に学ぶプログラムである。
- 1 学期で 10 単位、2 学期で 20 単位以上修得することができる。
- 学术交流協定校からの短期留学生はこのプログラムにより、単位を修得し、修了証を得ることができる。
- このプログラムの受講により、日本語の基本的な運用力を身につけることができる。
- 日本の文化と社会について基礎的な学識を得、異文化理解を深めることができる。

表 1 プログラムの概観(春学期・秋学期)

種類	区分	レベル又は科目	単位数	プログラム修了要件	
				最少単位数	週当たり最少時間数
日本語	必修	初級1	5	5(各レベルで指定する科目を週5コマ学修すること)	7.5
		初級2	5		
		初級3	5		

学 修 科 目		中級1	5		
		中級2	5		
	選 択	初級	1	1(初級・中級の各レベルで開講 されている選択科目のうち週1コ マの科目を学修すること)	1.5
		中級	1		
文 化 学 修 科 目	必 修	異文化理解1	2	2(左のいずれか1つの科目を学 修すること)	1.5
		異文化理解2	2		
選 択	日 本 文 化 入 門 日 本 人 と 学 ぶ 鹿 児 島 修 了 レ ポ ー ト 指 導	日本文化入門	2	2(左のいずれか1つの科目を学 修すること)	1.5
		日本人と学ぶ鹿児島	2		
		修了レポート指導	2		
合計				10 単位	12 時間/週

【10】2006 年度の開講科目状況

今年度鹿児島大学で開講した全日本語授業の開講科目数状況を表2に示す。週当たり開講コマ数の前・後期総計はここ数年ほぼ同様に、大枠で定着している。この基本体制の中で、年度内において様々に起こる個別要因により開講科目を学期ごとに微調整し、継続して柔軟な対応を行った。

表2 2006 年度 鹿児島大学日本語授業の開講科目数状況

開講部局		レベル	開講コマ数/週		
			前期	後期	
留学生センター	研修コース	初級(集中コース)	13	0	
	一般コース Study Japan Program	初級	初級 1	6	6
			初級 2	7	7
			初級 3	6	6
			初級 2、3	4	0
		中級	中級 1	9	7
			中級 2	4	5
			中級 1、2	1	1
		全レベル向け	3	4	
	家族サポートコース	初級	9	7	
初・中級		3	2		
農学研究科		中級 1、2、上級	1	0	
共通教育		上級	7	7	
週あたり開講コマ数合計			73	52	
週あたり開講コマ数総計(前期+後期)			125		

・「漢字1」は研修コースと一般コースの初級1レベル双方の開講コマ数に含まれる。

留学生センター	郡元	一般コース、Study Japan Program	初級会話1 漢字1	初級会話2 漢字2	初級会話3 初級応用 漢字3	中級会話1 読解入門 読解1	中級会話2 読解2	
			初級作文		中級作文、発音クリニック、日本人学生と学ぶ鹿児島、日本語ワークショップ			
	異文化理解1、異文化理解2、修了レポート、文法ワークショップ							
	桜が丘	家族	桜ヶ丘日本語ワークショップ					
	国際交流会館	サポートコース	会館 初級1	会館 初級2	会館 初級3			
共通教育	郡元							日本語 III 日本語 IV 日本事情 B

4. 各授業の受講者数、修了者数、受講者の在籍資格、専門・所属、国籍

前期と後期の各授業の受講者数、修了者数、受講者の在籍資格、専門・所属、国籍を巻末の表 11～14 にまとめた。受講者の特徴を、例年にならい以下4点について考察する。

【1】受講者数と修了者数

2001 年度からの受講者総数と修了者数および全学留学生数を表4に示す。(修了条件:出席率 80%以上、試験得点 60%以上)

表4 日本語授受講者総数及び修了者数および全学留学生数 (単位:人)

	受講者総数 (延べ数)		修了者数 (延べ数)		全学留学生数 (各年度大学概要による)
	前期	後期	前期	後期	
2001 年度	180	199	73	65	322
2002 年度	257	302	66	71	300
2003 年度	297	301	92	93	325
2004 年度	333	336	91	168	344
2005 年度	372	344	155	137	347
2006 年度	304	288	127	122	330

日本語受講者数は、2002 年度からの全学留学生数の増加ともあいまって、調査開始以来毎年増加していたが、本年度は留学生数が 2003 年度並みとなったことで、日本語受講者数も同年並みに減少した。

表 11、12 の受講者数の在籍資格の内訳を 2005 年度と比較すると、学部生の総計が大きく減少している。学部1年生の留学生数が減少したこと(2005 年度 36 人、2006 年度 14 人)が、受講者数の減少に大きく影響していることがわかる。

しかし、受講者数が減少した中で、短期留学生(学術交流協定校派遣の特別聴講学生、特別

研究学生、及び科目等履修生)の受講者数は増加している。

【2】受講者の在籍資格

2002年度からの受講者の在籍資格別割合を表5に示す。

表5 受講者の在籍資格別割合(単位:%)

	学位取得 目的の学生	(内訳)				短期 留学生	家族	研究員
		大学院生	研究生	学部生	予備教育生			
2002年度	67.7	24.5	30.4	12.9	集計に含めず	19.7	9.7	3.0
2003年度	63.9	21.2	23.1	15.4	4.2	24.1	9.9	2.2
2004年度	56.5	15.7	15.5	21.4	3.9	30.2	10.3	3.0
2005年度	58.1	9.8	12.3	31.8	4.2	33.8	5.7	2.4
2006年度	48.5	12.5	12.8	19.4	3.7	44.8	5.4	1.4

受講者を在籍資格別に見ると、学位取得目的の学生(大学院生、研究生、学部生、予備教育生)の割合が半数を割った。その主な理由は、前述のとおり学部1年生数の減少である。一方、短期留学生の割合は増加の一途を辿っている。

参考として、本年度の留学生総数に占める在籍資格別人数割合と、日本語受講者の在籍資格別割合を比較すると以下ようになる。

表6 留学生総数に占める在籍資格別人数割合と、日本語受講者の在籍資格別割合

留学生総数に占める在籍資格別人数割合は平成18年度5/1現在。平成18年度鹿児島大学概要による。

	A. 留学生総数に占める 在籍資格別人数割合	B. 日本語受講者の在籍資格別割合
大学院生、研究生、学部生、予備教育生(学位取得目的の留学生)	89.1%	48.5%
短期留学生	10.9%	44.8%

短期留学生の留学生総数に占める割合は、平成14年度の2.0%(平成14年度鹿児島大学概要による)から本年度10.9%と増加している(表6)。日本語受講者に占める割合も、本年度は44.8%と半数に迫る勢いである。年々日本語受講者の中で短期留学生の割合が高まっていることは、2002年度からの推移(表5)を見ても明らかである。

その一方、大学院生、研究生、学部生のグループは、留学生総数の89.1%を占めているが、日本語授業では48.5%にとどまっている。この現状は、以下の理由によると考えられる。

短期留学生が日本語受講者に占める割合が高い理由として、第一に、学部生が多く(表7)、留学目的がもともと日本語・日本事情(日本社会や文化等)を学ぶことと、あるいは日本語・日本事情と専門を学ぶことという学生が多いことが挙げられる。自国の大学で専門を研究するという段階に至っていない学生も多く、学位取得目的の大学院レベルの学生とは留学目的が異なっている。第二に、共通教育や部局で開講されている日本語による授業や実験に参加するには、最低

上級の日本語レベルが必要だが、参加したくてもそれらの科目を受講して理解できるほどの日本語能力がない学生も多い(表 8)ためである。昨年度に比べると、中・上級レベルの学生が増加したが、日本語が初・中級レベルの学生は、おのずと日本語の学習が中心になる。

表 7 特別聴講学生の内訳(平成18年度 11月1日現在)

所属	所属内訳	内訳人数	人数
大学院	医歯学総合研究科	1	3
	理工学研究科	1	
	農学研究科	1	
学部	教育学部	11	28
	法文学部	8	
	農学部	3	
	水産学部	2	
	工学部	2	
	医学部	1	
	理学部	1	
			総計31

表 8 特別聴講学生の日本語授業受講レベル(平成18年度後期)

レベル	初級1	初級2	初級3	中級1	中級2	上級
受講者数	1	0	4	4	6	13
受講者総数	28					

特別聴講学生在籍総数は31名。うち学部1名、大学院2名は日本語授業を受講していない。

一方、学位取得目的の学生が、留学生総数に占める割合に比して日本語受講者に占める割合が少ないのは、これらの学生が長期滞在であり、滞在期間中初期には日本語授業を取るが、後半になると専門の勉強に比重が置かれ、日本語授業を取らなくなるためである。

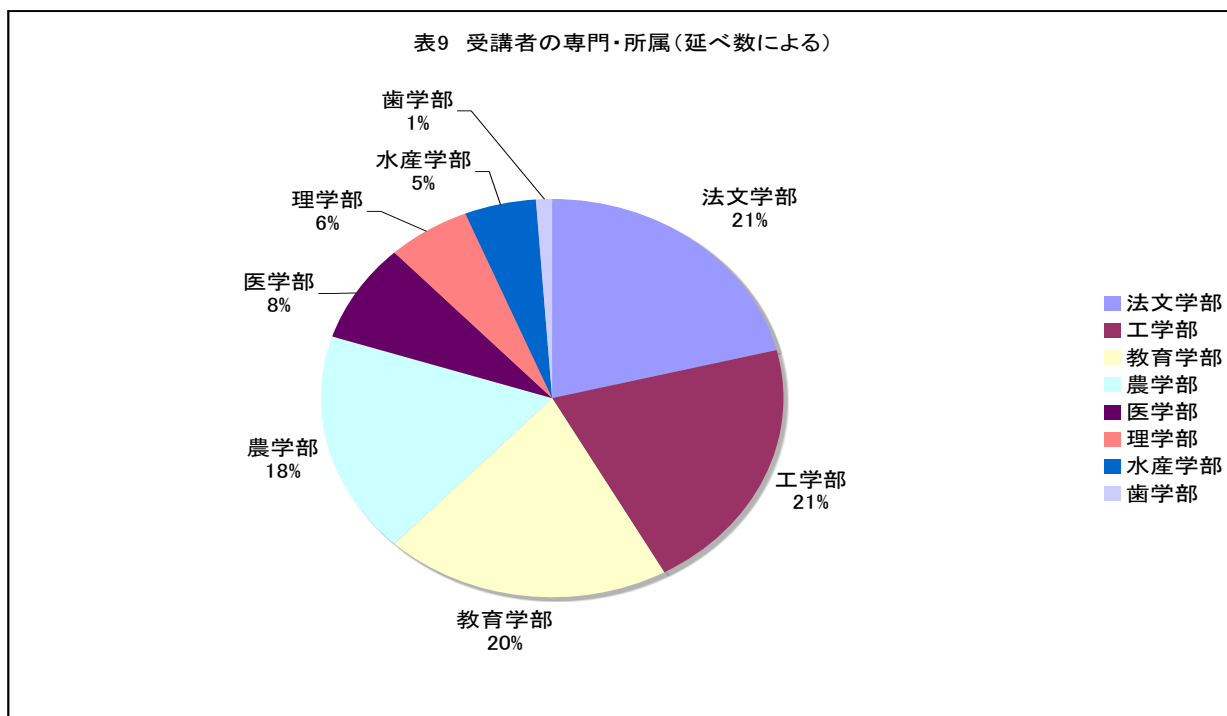
学部生を例にとると、1、2年ですべての日本語科目を履修する必要があり、この単位を取得すれば、3、4年では履修できる日本語科目が選択肢としてまったくない。また大学院生では、多くは非漢字圏の博士過程に見られるが、研究に日本語が必要でない学生もあり、この場合は初級を修了し生活に必要な日本語を身につけた後、来日後比較的短期間で日本語授業から離脱するケースも見られる。

以上、受講者の在籍資格の分析から、日本語・日本事情教育において留学生センターが二つの使命を担っていることが、あらためて確認できる。第一は、短期留学生の留学目的である日本語・日本事情教育、第二は、学位取得目的の留学生に対する生活レベルおよび専門研究の助けとしての日本語・日本事情教育である。どちらも重要であるが、短期留学生(特別聴講学生等)で日本語が初・中級レベルの学部生には、留学生センターの授業が留学中の中心をなしているという点は、国際学術交流協定に基づく学生交流において、本センターの教育活動が欠か

せない役割を果たしているということが言えよう。

【3】受講者の専門・所属

本年度の受講者の専門・所属は表 9 および表 11、12 のとおりである。



昨年度と比較すると法文学部が 8 ポイント、農学部が 4 ポイント増え、工学部が 5 ポイント減少した。法文学部、農学部は短期留学生の増加、工学部は学部生の減少によるものと思われる。また、例年全体の 6 割前後を占めている理系分野が、本年度も全体の 59%を占めた。

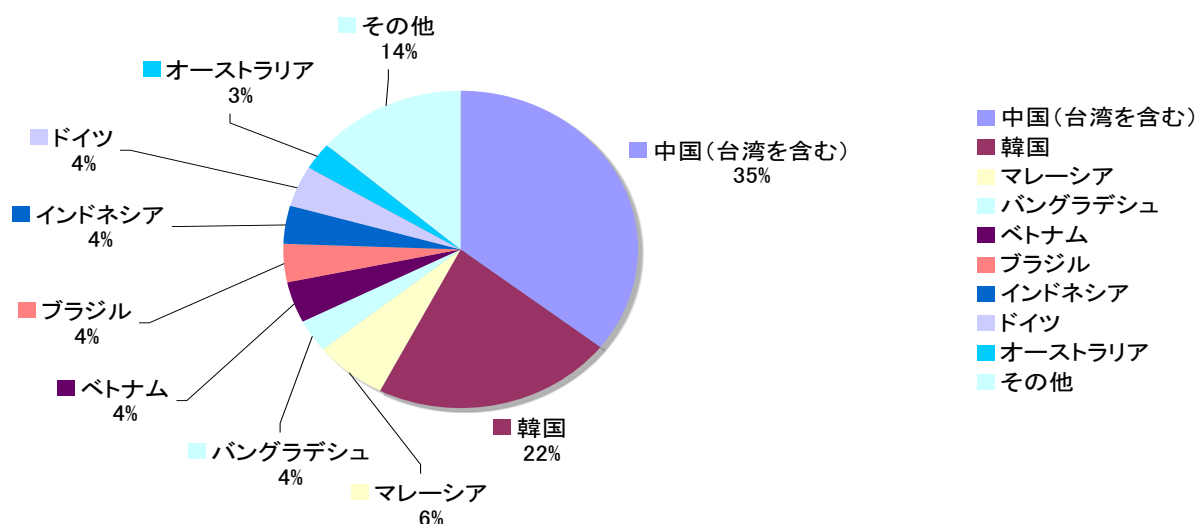
【4】受講者の国籍

本年度の受講者の国籍は表 10 および表 13、14 のとおりである。

最多の中国(台湾を含む)の受講者が総受講者に占める割合は 35%、第2位の韓国 22%を含めると漢字圏の学生は 57%であり、例年どおり全体の半数以上を占めている。昨年と比較すると、中国が 9 ポイント減り、韓国が 7 ポイント増えた。これは、本年度入学した学部生が昨年より少なく、中国の学生が減ったことが一因である。

非漢字圏の学生で多いのは、マレーシア、インドネシア、ドイツ、バングラデシュ、ベトナム、ブラジル、オーストラリアである。他はアジア、南米、アフリカ、中近東各国にわたってばらついていて、例年どおり北米、ヨーロッパ地域からの受講生は少なく、本年度もアメリカ、スペイン、ドイツ、ロシアのみであった。

表10 受講者の国籍(延べ数による)



上記【1】～【4】の考察他に、後掲表 11～14から必要に応じてレベル別・授業別の受講者数／修了者数／専門／国籍、授業別在籍資格を分析することができる。

5. 次年度の課題

次年度の課題は以下の3つが考えられる。

1) 継続的な教育の質の向上

授業担当教員の教育能力を向上するため、学ぶ機会を積極的に作り、研究会や学会などに参加すること等である。

2) 授業評価から内省した改善案実施後の自己検証

授業の改善後の効果の自己検証について考える必要があるだろう。そのためには、「自己評価報告書用資料(授業内容報告、授業実践についての自己評価、改善案)」用紙の「来学期の授業に対する改善案」に「今学期どう対応したか」という項目を付けることで、まず対応が可能だと思われる。

しかし、学期ごとに異なる学生の集まりである授業において、そのクラスの特徴に応じて臨機応変に最善を探るのが実際の教育であり、オールマイティな解決策、劇的変化を起こす改善案はそうあるはずはない。したがって、改善の効果を自己検証するという作業は、各授業の改善の効果を文書化して明らかにすることに意義はあるものの、その改善の効果の記述は、多くが非常に細かい地道なことがらになり、そのようなことがらを文書化するという作業になると予測される。

3) 言語習得ニーズや言語習得過程の異なる学生の扱い

日本語授業では、在籍目的の異なる様々な留学生が日本語を学んでいる。例えば、大学院

入学試験に備える研究生、協定校から派遣されて1年間留学をする特別聴講学生などである。これらの学生は、プレースメントテストで同レベルに入っても、日本語の習得目的が違えば興味もニーズも異なってくる。

言語習得過程の相違による問題もある。1年間留学をする南米からの日系県費留学生は、第一言語習得過程を辿って日本語の日常会話能力を獲得している例が多く、その他の留学生とは異質な習得過程、言語能力になっている。既知の言語知識でコミュニケーションを運用する能力は高くても、文法活用等の知識が十分でないため、新たな文型を積み上げるのが難しい場合がある。

このような様々な学生は、日本語学習に対して、自国の教育文化の影響などから教育方法についても個々様々にビリーフを持ち、また自己の日本語能力を過信している場合もある。数は少ないものの、それらが時として留学生センターの授業に満足できない原因になっている学生もいる。難題だが、そのような学生に対していかに認知的学習をさせるかも、一つの課題である。

注1) 畝田谷(2006)『留学生センター一年報 2005～2006』、pp.31-34

(留学生センター 准教授)

表11 各授業の開講場所、受講者数、性別、修了者数、受講者の在籍資格、専門・所属

平成18年度前期

科目	開講場所	受講者数	性別		修了者数	受講者の在籍資格							専門・所属									
			男性	女性		学部生	大学院生	研究生	予備教育生	短期等	研究員	家族等	農学	水産	医学	工学	法文	教育	歯学	理学	他大学	その他
初級会話1	総合教育研究棟	9<6>	7	2	9	0	0	1	6	2	0	0	3	2	1	0	1	1	0	1	0	0
初級会話2		12	8	4	9	0	1	2	0	9	0	0	7	0	0	1	3	1	0	0	0	0
初級会話3		14	8	6	11	0	4	4	0	6	0	0	4	0	0	0	3	4	1	2	0	0
漢字1	共通教育棟	10<6>	8	2	10	0	0	1	6	3	0	0	3	2	1	0	2	1	0	1	0	0
漢字2		3	1	2	3	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0
漢字3		6	1	5	6	0	0	0	0	6	0	0	1	0	0	0	2	3	0	0	0	0
漢字圏文法	総合教育研究棟	9	7	2	9	0	5	3	0	1	0	0	3	0	0	2	1	2	0	1	0	0
初級作文		7	3	4	6	0	0	2	0	5	0	0	1	0	0	1	3	2	0	0	0	0
初級応用		13	6	7	11	0	5	2	0	6	0	0	4	0	0	1	2	3	1	2	0	0
中級会話1	総合教育研究棟	8	3	5	4	0	4	1	0	2	0	1	3	0	0	1	1	1	0	1	0	0
読解1		5	2	3	2	0	3	0	0	2	0	0	2	0	0	1	0	1	0	1	0	0
読解入門		3	0	3	2	0	1	0	0	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中級会話2	共通教育棟	3	1	2	2	0	1	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0
読解2		3	2	1	2	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0
中級作文		6	2	4	4	0	2	0	0	4	0	0	1	0	0	1	1	2	0	1	0	0
発音クリニック	共通教育棟	9	0	9	9	0	0	0	0	8	1	0	2	0	0	0	2	5	0	0	0	0
日本語ワークショップ		6	0	6	4	0	1	0	0	5	0	0	4	0	1	0	0	1	0	0	0	0
異文化理解1		10<6>	8	2	10	0	0	1	6	3	0	0	3	2	1	1	2	0	0	1	0	0
異文化理解2		8	6	2	0	0	3	3	0	2	0	0	2	0	0	2	1	2	0	1	0	0
日本文化入門		6	0	6	5	0	0	0	0	6	0	0	2	0	0	0	2	2	0	0	0	0
修了レポート指導		9	2	7	9	0	0	1	0	8	0	0	2	1	0	0	4	2	0	0	0	0
日本語I*		26	14	12	0	15	1	0	0	10	0	0	2	3	3	9	5	4	0	0	0	0
日本語II*		23	12	11	0	13	0	0	0	10	0	0	1	3	3	8	5	3	0	0	0	0
日本事情A*		27	11	16	0	14	0	0	0	13	0	0	2	2	3	8	6	6	0	0	0	0
日本事情C*		36	14	22	0	31	0	0	0	5	0	0	1	0	2	18	9	4	0	2	0	0
科学技術日本語	農学研究科	4	3	1	0	0	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡元キャンパス小計		275	129	146	118	73	37	21	18	124	1	1	60	15	16	55	58	53	3	14	0	0
会館初級1	国際交流会館	9	6	3	4	0	0	3	0	0	1	5	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0
会館初級2		8	2	6	0	0	0	3	0	0	0	5	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0
会館初級3		3	0	3	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会館初級4		2	1	1	2	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
国際交流会館小計		22	9	13	9	0	1	6	0	0	2	13	1	1	0	3	2	2	0	0	0	0
桜ヶ丘日本語ワークショップ	医学部国際交流室	7	4	3	0	0	3	0	0	1	2	1	0	0	5	0	0	0	1	0	0	0
桜ヶ丘キャンパス小計		7	4	3	0	0	3	0	0	1	2	1	0	0	5	0	0	0	1	0	0	0
総計		304	142	162	127	73	41	27	18	125	5	15	61	16	21	58	60	55	4	14	0	0


- 注) 1 数字は延べ数。
 2 *印の科目は共通教育科目。
 3 色付セルは単位発行ができない学生の修了者数。
 4 修了者数欄  は修了認定をしない授業。
 5 <>は内数で研修コース生。
 6 専門・所属:研修コースの学生はそれぞれの専門によって分類。
 7 短期等:特別聴講学生、特別研究生、県費留学生、教員研修留学生、日本語日本文化研修留学生。

表12 各授業の開講場所，受講者数，性別，修了者数，受講者の在籍資格，専門・所属

平成18年度後期

科目	開講場所	受講者数	性別		修了者数	受講者の在籍資格							専門・所属						
			男性	女性		学部生	大学院生	研究生	予備教育生	短期等	研究員	家族等	農学	水産	医学	工学	法文	教育	歯学
初級会話 1	総合教育研究棟	12<1>	7	5	8	0	1	9	1	1	0	0	1	2	1	6	0	0	2
初級会話 2		9	6	3	5	0	3	4	0	2	0	0	2	0	1	2	1	1	0
初級会話 3		14	5	9	11	0	5	2	0	7	0	0	2	0	1	2	3	3	0
初級作文		5	2	3	2	0	0	1	0	4	0	0	1	0	1	0	1	2	0
漢字 1		6<1>	3	3	5	0	0	4	1	1	0	0	1	1	1	2	0	0	0
漢字 2	共通教育棟	2	0	2	2	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0
漢字 3		3	1	2	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	1	1	0	0
初級応用	総合教育研究棟	11	4	7	5	0	4	1	0	6	0	0	2	0	1	1	1	3	0
中級会話 1		11	6	5	4	0	3	3	0	5	0	0	2	0	0	1	3	3	0
読解入門		8	3	5	5	0	2	1	0	5	0	0	1	0	0	2	2	2	0
中級読解 1		7	4	3	4	0	1	2	0	4	0	0	1	0	0	1	3	1	0
中級会話 2		9	3	6	6	0	1	1	0	6	0	1	3	0	0	0	3	2	0
中級読解 2	共通教育棟	8	4	4	6	0	1	1	0	5	0	1	2	0	0	0	3	2	0
中級作文	総合教育研究棟	11	5	6	7	0	1	3	0	7	0	0	1	0	0	1	6	2	0
発音クリニック	共通教育棟	5	1	4	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	1	2	1	0
日本語ワークショップ		11	5	6	6	0	2	3	0	6	0	0	1	0	0	0	3	4	1
日本人学生と学ぶ鹿児島		13	1	12	12	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	1	5	6	0
異文化理解 1		7<1>	3	4	6	0	0	5	1	1	0	0	1	1	1	3	0	0	0
漢字圏ワークショップ		1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
修了レポート指導		2	1	1	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0
スピーチ・コンピュータ		6<1>	4	2	4	0	1	4	1	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0
文法ワークショップ		12	7	5	0	3	3	0	6	0	0	3	0	0	4	3	2	0	0
日本語Ⅲ*		32	12	20	0	15	0	0	0	17	0	0	4	2	3	9	6	8	0
日本語Ⅳ*		29	12	17	0	14	0	0	0	15	0	0	3	2	3	9	6	6	0
日本事情B*		30	12	18	0	13	0	0	0	17	0	0	3	2	3	8	7	7	0
郡元キャンパス小計			264	112	152	109	42	29	48	4	139	0	2	37	12	18	55	59	57
会館初級 1	国際交流会館	8	2	6	5	0	0	1	0	0	0	7	0	0	0	1	0	0	0
会館初級 2		7	2	5	5	0	1	0	0	0	1	5	0	0	0	1	0	1	0
会館初級 3		5	2	3	3	0	1	0	0	0	1	3	0	1	0	0	0	1	0
国際交流会館小計		20	6	14	13	0	2	1	0	0	2	15	0	1	0	2	0	2	0
桜ヶ丘日本語ワークショップ	医学部国際交流室	4	2	2	0	2	0	0	1	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0
桜ヶ丘キャンパス小計		4	2	2	0	2	0	0	1	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0
総計		288	120	168	122	42	33	49	4	140	3	17	37	13	22	58	59	59	1


- 注) 1 数字は延べ数。
 2 *印の科目は共通教育科目。
 3 色付セルは単位発行ができない学生の修了者数。
 4 修了者数欄  は修了認定をしない授業。
 5 <>は内数で研修コース生。
 6 専門・所属:研修コース、日韓理工系研修コースの学生はそれぞれの専門によって分類。
 7 短期等:特別聴講学生、特別研究生、県費留学生、教員研修留学生、日本語日本文化研修留学生。

表13 受講者の国籍

平成18年度前期 受講者の国籍

国籍	科 目																												国別人数								
	初級会話1	初級会話2	初級会話3	漢字圏文法	漢字1	漢字2	漢字3	初級作文	初級応用	中級会話1	中級読解1	読解入門	中級会話2	中級読解2	中級作文	発音クリニック	日本語ワ ク ハ プ	異文化理解1	異文化理解2	日本文化入門	修了レポ ート指導	日本語I	日本語II	日本事情A	日本事情C	科学技術日本語	郡元キャンパス小計	会館初級1		会館初級2	会館初級3	会館初級4	国際交流 会館小計	桜ヶ丘日本語 ワー ク シ ョ ッ プ	桜ヶ丘キャン パス小計		
アメリカ	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
インドネシア	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	6	2	0	1	0	3	1	1	10		
エジプト	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	1	1	1	5		
オーストラリア	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	8	
韓国	1	0	2	0	0	0	4	1	2	1	1	1	1	0	1	6	2	0	0	1	2	5	6	8	6	0	51	0	0	0	0	0	0	0	0	51	
ケニア	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
コンゴ民主共和国	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
スペイン	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
ソロモン諸島	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
タイ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	1	0	0	0	4		
台湾	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	2	2	2	1	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	12	
タンザニア	0	3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	1	0	0	0	1	0	0	0	7		
中国	0	3	5	9	0	0	0	3	3	5	3	0	1	1	4	1	0	0	8	0	0	9	8	10	24	3	100	5	4	2	0	11	3	3	114		
ドイツ	0	1	1	0	0	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	2	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	12		
バングラデシュ	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	7	0	4	0	0	4	0	0	0	11		
フィリピン	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
ブラジル	1	2	1	0	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	1	12	
ベトナム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	1	0	0	1	1	3	1	1	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	
ペルー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
マレーシア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	5	3	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	
ミャンマー	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	1	1	1	1	1	5		
ロシア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
受講者総数	9	12	14	9	10	3	6	7	13	8	5	3	3	3	6	9	6	10	8	6	9	26	23	27	36	4	275	9	8	3	2	22	7	7	304		

注) 1 数字は延べ数。

表14 受講者の国籍

平成18年度後期 受講者の国籍

国籍	科 目																											国別人数						
	初級会話1	初級会話2	初級会話3	初級作文	漢字1	漢字2	漢字3	初級応用	中級会話1	読解入門	中級読解1	中級会話2	中級読解2	中級作文	発音クリニック	日本語ワークシヨップ	異文化理解1	漢字圏ワークシヨップ	修了レポート指導	日本人学生と学ぶ鹿児島	スピーチ・コンピュータ	文法ワークシヨップ	日本語Ⅲ	日本語Ⅳ	日本事情B	郡元キャンパス小計	会館初級1		会館初級2	会館初級3	国際交流会館小計	桜ヶ丘日本語ワークシヨップ	桜ヶ丘キャンパス小計	
インド	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
インドネシア	1	0	2	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	11	1	1	1	3	0	0	14
エジプト	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	1	0	0	4	
オーストラリア	0	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	9	0	0	0	0	0	0	9
韓国	2	2	2	1	0	0	1	2	4	2	4	5	5	5	2	4	0	0	1	7	2	2	9	6	8	76	1	1	1	3	0	0	79	
ケニア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	
コロンビア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	2	
コンゴ民主共和国	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	2	0	0	3	
スペイン	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	5	
ソロモン諸島	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	
タイ	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4	
台湾	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	6	0	0	0	0	0	0	6	
タンザニア	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	1	1	0	2	0	0	5	
中国	2	2	1	0	0	0	0	1	3	1	3	3	3	4	2	1	0	1	0	6	0	2	12	12	12	71	1	2	2	5	3	3	79	
ドイツ	0	0	1	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	11	
ネパール	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4		
バングラデシュ	1	1	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	9	0	1	0	1	0	0	10		
ブラジル	0	2	3	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	12		
ベトナム	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	2	2	11	0	0	0	0	0	0	11	
マレーシア	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	6	6	5	19	1	0	0	1	0	0	20	
ミャンマー	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	1	0	0	4		
受講者総数	12	9	14	5	6	2	3	11	11	8	7	9	8	11	5	11	7	1	2	13	6	12	32	29	30	264	8	7	5	20	4	4	288	

注) 1 数字は延べ数。

平成18(2006)年度日本語コース授業評価

2006年前期・後期の学生による授業評価は例年通り5段階評価で18問である。以下に質問内容およびこれらの質問について5段階評価を行った結果を、前・後期各クラスごとの平均値として示した。なお18問中、質問14から質問18については各担当教官についての個人評価を行っており、その部分については本報告書には含めないものとする。2004年度後期からスタートしたスタディ・ジャパン・プログラムに関連する科目は、前期35科目中21科目、後期34科目中21科目である。授業評価未実施のクラスは、前期5科目、後期9科目で、実施率はそれぞれ85%、73%であった。未実施の理由は個別指導を中心とする、休講、評価形態に適合しないなどであった。

[質問内容]

- 1 あなたはこの授業によく出席しましたか。
- 2 あなたはこの授業でたくさん勉強しましたか。
- 3 授業でおぼえたことばを毎日の生活で使えるようになりましたか。
- 4 日本の文化や日本人についてよく理解できるようになりましたか。
- 5 授業のスピードはどうでしたか。
- 6 学習量はどうでしたか。
- 7 クラスの学生数はどうでしたか。
- 8 一週間の授業時間数はどうでしたか。
- 9 クラスの規則や成績のつけ方についての説明はどうでしたか。
- 10 このクラスの教材は全体としてどうでしたか。
- 11 このクラスの教え方は全体としてどうでしたか。
- 12 テストのやり方や宿題、レポートの直し方は全体としてどうでしたか。
- 13 この授業は全体としてどうでしたか。
- 14 先生は教える知識と能力が十分にありましたか。
- 15 先生の話し方はわかりやすかったですか。
- 16 質問への答え方はどうでしたか。
- 17 先生の教えることに対する熱意はどうでしたか。
- 18 先生は教えるのを楽しんでいましたか。

[2006年度日本語コース授業評価結果]

[前期]

質問 クラス名	登録者数	回答者数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	平均
初級会話1	9	9	4.6	4.1	4.1	3.8	3.5	4.3	4.4	4.5	4.5	4.5	4.6	4.4	4.5	4.2
初級会話2	12	11	4.0	4.0	4.5	4.0	4.4	4.1	4.1	4.4	4.3	4.2	4.6	4.3	4.3	4.2
初級会話3	14	13	4.3	3.6	3.8	3.9	4.3	4.0	4.1	3.9	4.2	4.1	4.3	4.2	4.2	4.0
初級応用	13	12	4.0	3.5	3.7	4.0	3.9	3.6	3.3	4.1	4.0	4.0	4.1	4.0	4.0	3.8
漢字1	10	10	4.0	4.0	4.0	3.6	4.2	3.8	4.7	4.7	4.0	4.0	4.2	4.2	4.4	4.1
漢字2	3	3	4.3	4.3	4.0	4.3	4.6	4.3	4.0	4.0	4.0	5.0	4.0	4.3	4.6	4.2
漢字3	6	5	4.2	4.2	4.8	3.8	4.2	4.2	3.6	4.2	4.4	4.6	4.4	4.4	4.5	4.2
初級作文	7	5	4.6	4.4	4.2	3.9	3.6	4.3	4.2	4.2	4.4	4.5	4.3	4.3	4.4	4.2
読解入門	3	2	3.5	3.0	4.0	4.5	4.5	4.0	4.0	3.5	4.0	4.0	4.5	4.0	4.5	4.0
中級会話1	8	4	4.0	4.0	4.5	4.7	4.0	3.7	3.3	3.6	4.6	4.3	4.6	3.7	4.5	4.1
中級会話2	3	3	4.6	4.0	5.0	5.0	4.6	4.3	3.5	4.3	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.4
読解1	5	2	4.5	3.5	5.0	4.5	4.5	4.0	5.0	4.0	4.5	4.0	4.5	4.0	4.5	4.3
読解2	3	2	4.0	4.0	4.5	4.5	4.5	4.0	4.0	4.0	4.5	4.5	4.0	4.5	4.5	4.2
中級作文	6	4	4.5	3.5	4.7	4.2	4.0	4.2	4.5	4.5	4.7	4.2	4.5	4.5	5.0	4.3
発音クリニック	9	8	4.6	4.2	4.1	4.2	4.1	4.2	3.8	4.0	3.8	3.8	4.2	3.8	4.3	4.0
日本語ワークショップ	6	4	4.0	4.2	4.0	4.2	4.5	4.5	4.0	4.5	4.5	4.5	4.2	4.2	4.2	4.2
コンピューター実習	0	※														
異文化理解1	10	8	4.3	3.5	4.0	4.0	4.6	4.2	4.0	4.1	4.5	4.1	4.3	4.4	4.1	4.1
異文化理解2	8	※														
日本文化入門	6	5	4.4	4.2	4.2	4.4	4.4	4.4	4.0	4.2	4.4	4.4	4.2	4.0	4.2	4.2
修了レポート指導	9	※														
漢字圏文法	9	※														
科学技術日本語	4	2	4.0	4.5	5.0	4.5	5.0	5.0	3.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.7
日本語 I (A)	14	12	4.4	3.9	3.8	3.7	3.8	4.0	4.0	4.0	3.3	4.0	4.1	3.9	4.0	3.9
日本語 I (B)	12	12	4.4	3.8	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.3	4.2	4.3	4.1	4.5	4.1
日本語 II (A)	12	12	4.8	4.0	4.2	4.2	4.6	4.6	4.3	4.3	4.6	4.6	4.5	4.5	4.7	4.4
日本語 II (B)	11	11	4.6	4.0	4.2	4.1	4.2	4.4	4.4	4.5	4.4	4.6	4.6	4.6	4.6	4.4
日本事情A(文系)	15	13	4.9	4.1	3.7	4.0	4.4	4.2	4.3	3.9	4.0	4.6	4.3	4.0	4.3	4.2
日本事情A(理系)	12	10	4.4	3.9	3.5	3.7	4.2	4.0	4.0	4.2	4.4	4.4	4.2	4.0	4.5	4.1
日本事情C	36	34	4.7	4.3	4.1	4.5	4.3	4.2	3.9	4.2	4.5	4.4	4.4	4.4	4.4	4.3
会館初級1	9	4	4.5	4.5	4.2	4.2	4.2	4.2	3.7	3.5	3.7	5.0	4.7	4.5	4.7	4.2
会館初級2	8	1	5.0	5.0	5.0	4.0	5.0	4.0	4.0	5.0	5.0	4.0	4.0	5.0	5.0	4.6
会館初級3	3	3	4.3	3.6	4.0	4.3	3.6	3.3	2.6	2.3	4.0	4.0	4.0	4.0	3.6	3.6
会館初級4	2	2	4.5	3.5	3.5	3.5	4.5	5.0	5.0	4.5	4.5	5.0	5.0	4.5	5.0	4.4
桜ヶ丘日本語ワークショップ	7	※														

※未実施

[2006年度日本語コース授業評価結果]

[後期]

質問 クラス名	登録者数	回答者数	質問													平均
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
初級会話1	12	9	4.1	3.7	4.0	3.6	4.3	4.5	4.0	4.3	4.5	4.5	4.8	4.2	4.8	4.2
初級会話2	9	5	4.0	4.0	3.6	4.2	4.6	4.8	4.6	4.6	4.4	4.6	4.6	4.4	4.8	4.4
初級会話3	14	11	3.9	3.9	4.0	4.2	3.7	4.2	4.6	4.4	4.3	4.7	4.8	4.5	4.7	4.3
初級応用	11	4	4.5	4.0	4.5	4.7	4.5	4.0	4.7	4.5	4.7	4.5	4.5	4.5	4.5	4.4
漢字1	6	5	4.2	3.4	4.2	3.8	4.0	4.4	3.0	3.4	4.8	4.2	4.6	4.8	4.8	4.1
漢字2	2	2	4.0	4.5	3.5	4.0	4.5	4.5	3.5	3.0	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.2
漢字3	3	3	3.6	4.6	4.6	3.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.3	4.0	4.3	5.0	4.6	4.3
初級作文	5	2	3.5	3.0	4.0	4.5	4.0	4.5	4.5	5.0	4.5	4.5	4.0	5.0	4.5	4.2
読解入門	8	6	4.1	3.6	4.3	4.3	4.3	4.3	4.6	4.3	4.6	4.1	4.6	4.1	4.5	4.2
中級会話1	11	5	4.2	4.2	4.4	4.2	4.2	4.8	4.4	4.6	4.6	4.6	5.0	5.0	4.8	4.5
中級会話2	9	6	4.1	4.0	4.1	4.5	4.5	4.1	4.6	4.5	4.3	4.5	4.6	4.8	4.6	4.4
中級読解1	7	4	4.0	4.2	4.2	4.2	4.2	4.7	4.5	4.5	4.7	4.7	4.7	4.7	4.0	4.4
中級読解2	8	5	4.2	4.0	4.2	4.2	4.2	4.4	4.4	4.4	4.8	5.0	4.8	4.6	4.8	4.4
中級作文	11	6	4.5	4.6	4.0	3.8	4.3	4.0	4.3	4.5	3.5	4.1	4.1	3.8	4.0	4.1
発音クリニック	5	※														
日本語ワークショップ	11	※														
異文化理解1	7	5	4.6	3.6	3.8	3.2	4.4	4.2	4.5	4.6	4.4	4.8	5.0	4.8	5.0	4.3
コンピュータ実習	6	※														
修了レポート指導	2	※														
日本文化入門	0	※														
日本人学生と学ぶ鹿児島	13	※														
漢字圏ワークショップ	1	※														
文法ワークショップ	12	※														
日本語Ⅲ(A)	17	15	4.9	4.3	4.6	4.6	4.8	4.8	4.8	4.6	4.7	4.7	4.8	4.8	4.8	4.7
日本語Ⅲ(B)	15	14	4.3	3.9	3.6	3.6	3.9	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	4.1	4.2	4.2	3.9
日本語Ⅳ(A)	8	8	4.8	4.5	4.3	4.7	5.0	4.8	4.8	4.8	4.8	4.6	4.8	4.7	4.7	4.7
日本語Ⅳ(B)	10	9	4.3	4.2	3.7	3.7	4.3	4.2	4.5	4.5	4.6	4.5	4.3	4.5	4.3	4.2
日本語Ⅳ(C)	11	9	4.2	3.8	3.7	3.6	4.2	4.1	4.3	4.2	4.3	4.5	4.6	4.5	4.6	4.2
日本事情B(文系)	17	15	4.7	4.2	4.2	4.6	4.8	4.8	4.8	4.7	4.5	4.6	4.8	4.7	4.8	4.6
日本事情B(理系)	13	10	4.7	4.3	4.3	4.1	4.3	4.5	4.6	4.6	4.6	4.5	4.5	4.7	4.6	4.4
会館初級1	8	4	4.2	4.5	4.0	3.7	4.0	3.7	4.2	4.5	4.5	4.5	4.3	4.0	4.3	4.1
会館初級2	7	5	4.6	4.6	4.4	4.6	4.7	4.2	4.4	2.8	4.8	5.0	4.6	4.8	4.6	4.4
会館初級3	5	3	4.0	4.3	4.6	4.6	4.3	4.3	2.6	2.3	4.3	4.6	4.6	4.3	4.6	4.1
日本語ワークショップ(桜ヶ丘)	4	※														

※未実施